

地域公共交通計画に関する検討について

地域公共交通計画の策定スケジュール

章構成（案） ●：協議事項	R4 年度		R5 年度	
	協議会① R4/12/21	協議会② R5/3/28	協議会③ R5/8 月頃	協議会④ R5/12 月頃
第 1 章 はじめに …計画策定の背景と目的、位置付け、計画区域、計画期間	●			パ ブ コ メ 結 果 等 を 含 め た 修 正 案 に つ い て 協 議
第 2 章 地域および公共交通の現状 …社会状況、公共交通の現状（アンケート結果等からニーズを把握）	● 調査方針 の協議	● 調査結果 の報告		
第 3 章 新発田市地域公共交通網形成計画の評価 …数値指標の達成状況、施策の実施状況		●		
第 4 章 公共交通の課題 …第 2 章、第 3 章を踏まえた課題整理		●		
第 5 章 基本的な方針 …目指すべき将来像、各交通手段の役割、取組の方向性を明確化		●	○ 適宜修正	
第 6 章 計画の目標 …目標、数値指標の設定		●		
第 7 章 目標達成のための施策・事業 …具体的な施策・事業を体系的に整理			●	
第 8 章 計画の達成状況の評価 …計画の評価・見直しのスケジュール、方法、体制の整理			●	
		R5/10 月頃 パブリックコメント		R5 年度中 に成案

新発田市地域公共交通網形成計画の評価

○施策は 44 施策計画されており、実施中が 22 施策、一部実施が 18 施策、未実施が 4 施策。
○10 の評価指標はいずれも目標値を未達成となっているものの、公共交通網形成計画策定時の課題は一部改善されている。

表 課題への対応状況

地域公共交通網形成計画の課題		課題への対応状況
課題 1	交通弱者の日常生活の移動手段の確保	・各地区から市街地中心部へ公共交通（バスまたは鉄道）を運行し、交通弱者の移動手段を確保。
課題 2	周辺地域と市街地中心部を結ぶ移動手段の確保	・周辺地区から市街地中心部への公共交通は、加治川地域や紫雲寺地域などの一部を除き確保。
課題 3	地域特性や移動ニーズに応じた公共交通の見直し	・地域特性に応じた公共交通の見直しを進めており、松浦地区と豊浦地区で路線バスからコミュニティバス、デマンド交通に変更し、移動ニーズや利用状況に合わせた見直しを実施。
課題 4	市街地中心部における移動手段の維持・向上	・市街地中心部では、主要施設（病院や商業施設等）を巡回する市街地循環バス（あやめバス）が運行し、川東コミュニティバスや新発田市コミュニティバスも乗り入れて利便性を向上。
課題 5	近隣市町との連携による地域の活性化	・新潟市との交通は、鉄道、路線バス共にある。聖籠町との交通は路線バスから聖籠町のコミュニティバス（はまなす号）に、阿賀町との交通は路線バスから赤谷コミュニティワゴンに代替。胎内市との交通は、鉄道があるものの、路線バスは休止となり代替となる交通手段はない。隣接市町とは、路線バスまたは鉄道の公共交通手段を確保。
課題 6	交通結節点における機能の向上	・新発田駅東交通広場を整備するなど、交通結節点の機能向上に努めている。
課題 7	公共交通を利用しやすい環境整備	・ホームページ等で公共交通の利用方法を知らせるほか、新たな公共交通に切り替える場合は、各地域で複数回の説明会を開催するなど、丁寧に公共交通の利用環境整備に努めている。
課題 8	地域がつくり、支える公共交通の構築	・菅谷・加治地区で NPO による公共交通の運行が行われているほか、川東地区、五十公野・米倉・赤谷地区、松浦地区、豊浦地区、紫雲寺地区では、地域の公共交通を検討する体制を構築。
課題 9	公共交通の維持に向けた意識の醸成	・人口減少に伴い、公共交通の利用人数も減少している。また、新型コロナウイルスの影響もあり、イベント等の開催が困難であったことなどから、十分な意識の醸成ができていない。

アンケート調査

表 調査概要

調査種別	住民アンケート調査	高校生アンケート調査
対象	○住市内在住の 20 歳以上 80 歳未満 ※地区別人口をもとに配布数を設定	○市内に立地する 6 校の第 2 学年全員
配布/回収	○郵送配布/郵送回収 配布日：令和 5 年 1 月 13 日～ 回収期限：令和 5 年 1 月 27 日	○直接配布/直接回収 配布日：令和 5 年 1 月 10 日～ 回収期限：令和 5 年 1 月 27 日
配布数	3,787 部	1,280 部
回収数	1,772 部（回収率 47.0％）	1,097 部（回収率 85.7％）

公共交通の課題

地域公共交通網形成計画策定時の課題は各種取組により一部改善されているものの、今後も継続的な取組が必要な内容であることから、上記の課題を踏襲・整理し、本市の公共交通の現状や取り巻く社会状況を踏まえ、9 の課題を整理する。

- ・課題 1：周辺地域と市街地を結ぶ移動手段の確保
- ・課題 2：地域特性や移動ニーズに応じた公共交通の見直し
- ・課題 3：まちの変化に対応する移動手段の確保
- ・課題 4：近隣市町との連携による地域の活性化
- ・課題 5：交通結節点等における環境整備
- ・課題 6：利用を促す公共交通の情報発信
- ・課題 7：地域で支える公共交通の構築と意識の醸成
- ・課題 8：輸送資源の確保
- ・課題 9：利便性・効率性の向上に向けた新技術導入の検討

基本方針

新発田市まちづくり総合計画に掲げる「住みよいまち」の実現に向けて、日常生活を支える公共交通の維持・確保を図り、人の流れとつながりを生み出し、まちの賑わい創出につながる持続可能な公共交通網の形成を目指す。

【目指す公共交通網】

- ・市民の暮らしやすさの向上を目指し、周辺地域では、各集落を網羅する公共交通網を整備する。
- ・新発田駅及び西新発田駅を交通結節点とし、都市拠点における回遊性を高め、まち全体に人の流れを生み出す。

計画の目標

■目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保【課題 1、5、6】

- ・周辺地域では、地域ごとの特性にあわせて定路線迂回型等を含む柔軟な公共交通を展開し、周辺地域と中心市街地を結ぶ市民の生活の足を維持・確保。

■目標 2 まちなか移動を支える公共交通の充実【課題 3】

- ・市街地では、市街地循環バス「あやめバス」の充実により、まちなかの移動利便性を向上。
- ・住宅地や商業地などの開発によるまちの変化に対応する公共交通網の構築。

■目標 3 地域で支える公共交通の構築【課題 7】

- ・利用者の確保に向け、地域住民の主体性を育成し、地域と共につくる環境の構築。
- ・「地域で地域の公共交通を守る」意識を醸成するため、公共交通に関する情報発信の強化。

■目標 4 持続可能な公共交通網の構築【課題 2、4、8、9】

- ・社会の変化や移動ニーズに応じた運行体系の見直しにより、持続可能な公共交通網を構築。
- ・将来に向けた公共交通の基盤整備を目指し、必要に応じて新技術導入や地域輸送資源の総動員を検討。

【評価指標】

上記の目標に対して、6 つの評価指標を設定。

評価指標	関連目標
①あやめバスの年間利用者数	目標 2
②コミュニティバス、乗合ワゴンの年間利用者数	目標 1
③バス、乗合ワゴンの利用者 1 人当たりの運行経費	目標 4
④バス、乗合ワゴンの収支率	目標 4
⑤公共交通空白域の解消率	目標 1
⑥数値目標設定の路線数	目標 3

※具体的な目標数値は令和 5 年度に検討を行う。

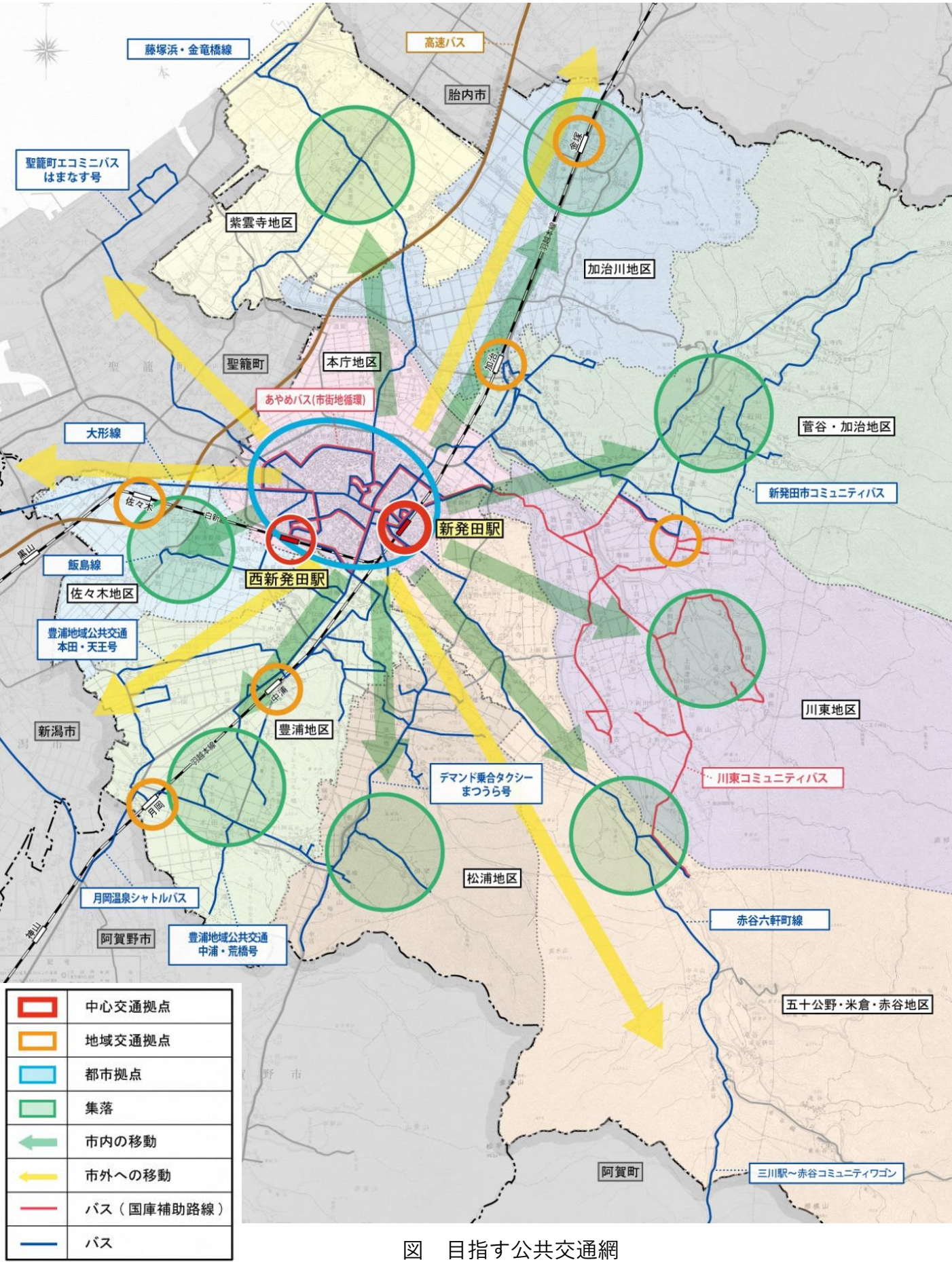


図 目指す公共交通網

【第2号議案】

【住民アンケートの主な調査結果】

■外出の主な行き先

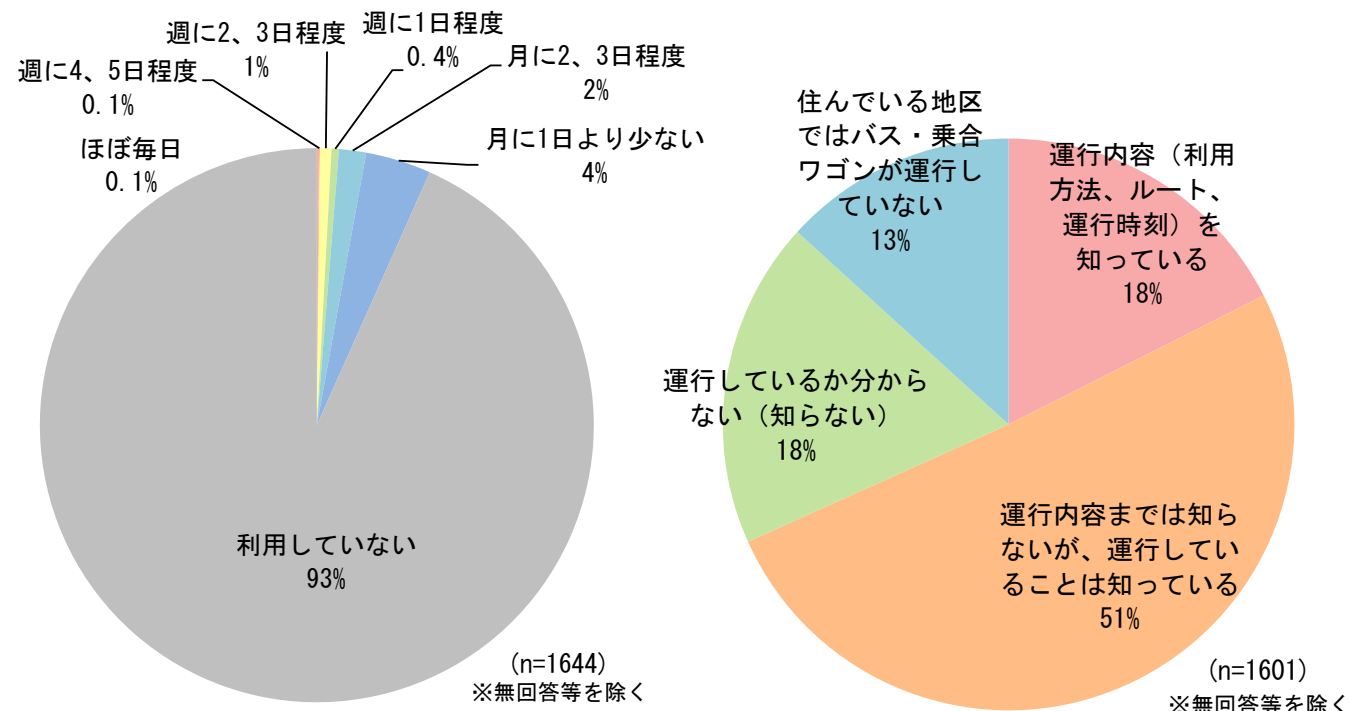
○「買い物」は国道沿いのエリア、「通院」は新発田病院等が立地する中心市街地、「通勤」は周辺地区や市外を主な行き先とする割合が高く、目的ごとに異なる傾向がみられる。

	買い物 (n=1515)	通院 (n=1042)	通勤 (n=685)	その他 (n=686)
中心市街地	13%	35%	16%	22%
西新発田駅周辺	20%	9%	5%	13%
新栄町・舟入町など	22%	9%	7%	15%
中曽根町・城北町・緑町など	19%	15%	4%	10%
駅東側市街地	13%	10%	6%	7%
周辺地区	6%	13%	22%	14%
新潟市	4%	6%	21%	11%
胎内市	2%	1%	6%	2%
その他市町村	1%	2%	13%	6%

図 外出の主な行き先

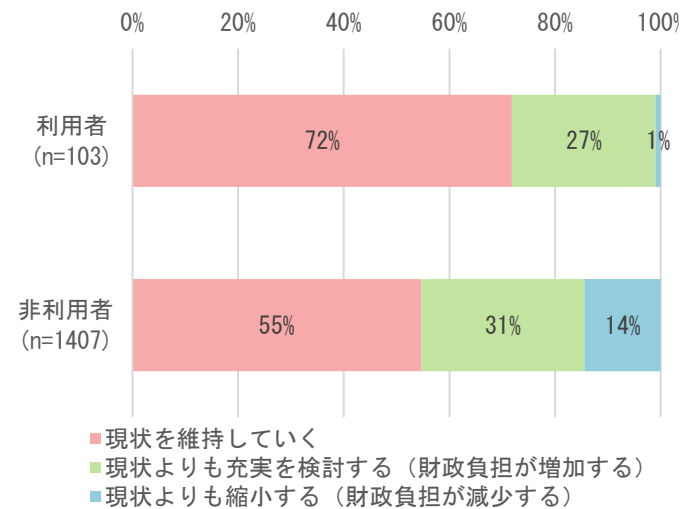
■バス・乗合ワゴンの利用頻度と認知度

○バス・乗合ワゴンを「利用していない」が93%を占める。
○「運行内容を知っている」は約2割にとどまっている。



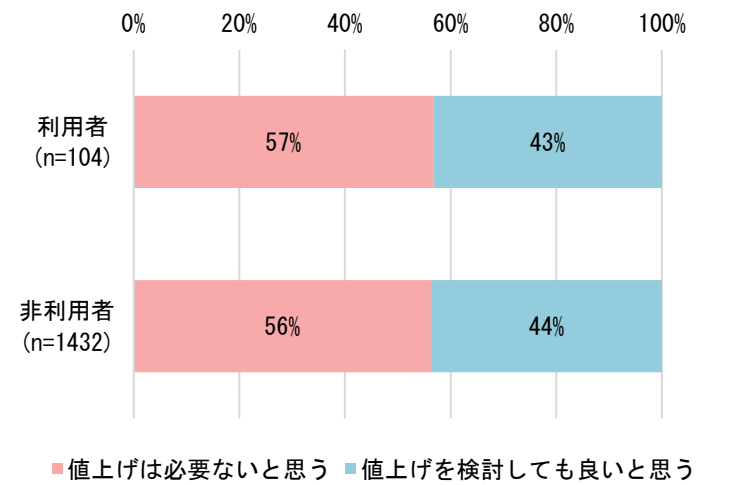
■今後の方針について

○非利用者でも「現状を維持」「現状より充実」の合計が8割以上を占める。



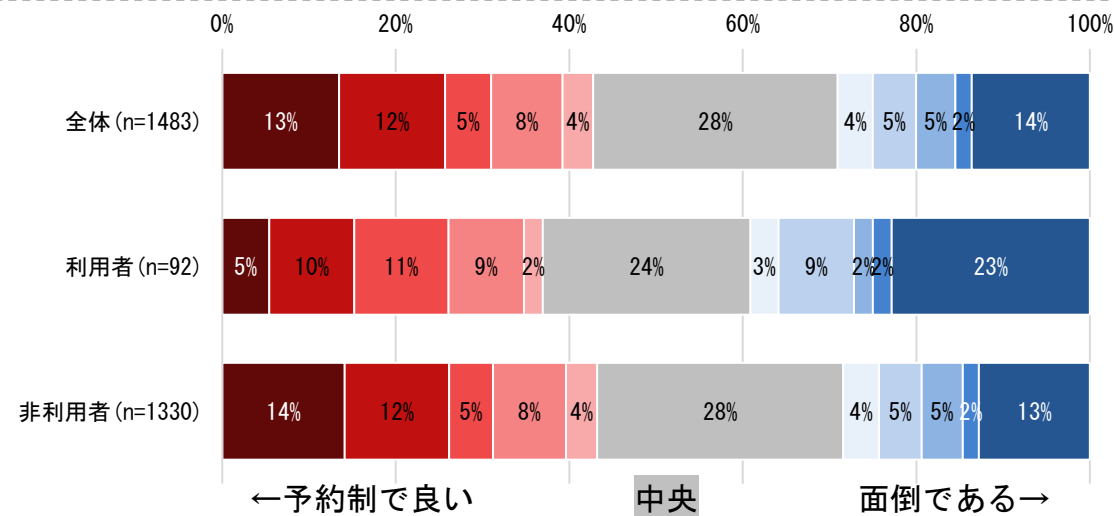
■運賃の値上げについて

○利用者の4割以上が「値上げを検討しても良いと思う」と回答している。



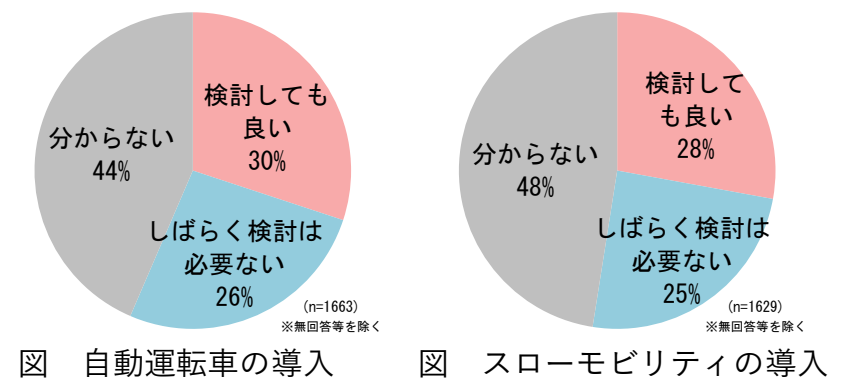
■事前予約制について

○利用者は、非利用者よりも予約制が「面倒である」と回答した人の割合が高い。



■新技術の導入について

○どちらも「分からない」が4～5割で、「検討しても良い」は約3割にとどまっている。



【第2号議案】

【高校生アンケートの主な調査結果】

■通学での移動手段

- 市内居住者は、晴れた日は「自転車」、雨・雪の日は「家族等の送迎」の割合が高い。
- 市外居住者は「鉄道」利用が約8割を占める。
- 通学での「バス・乗合ワゴン」の利用は、晴れた日は約1割、雨・雪の日は約2割。

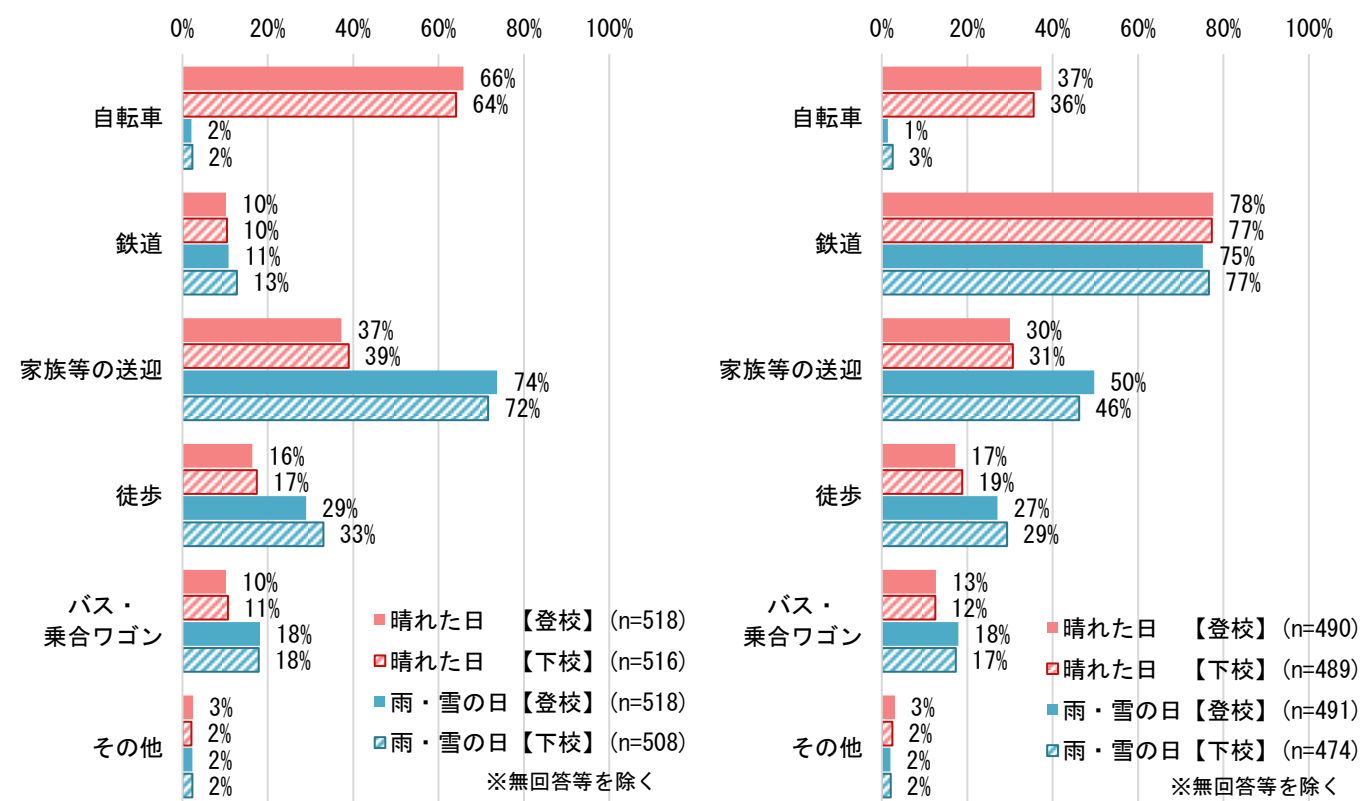


図 通学での移動手段（市内居住者）

図 通学での移動手段（市外居住者）

■バス・乗合ワゴンの利用頻度と認知度

- バス・乗合ワゴンの利用者は約4割。
- 「運行内容を知っている」は約3割にとどまり、「運行しているか分からない」が約2割。

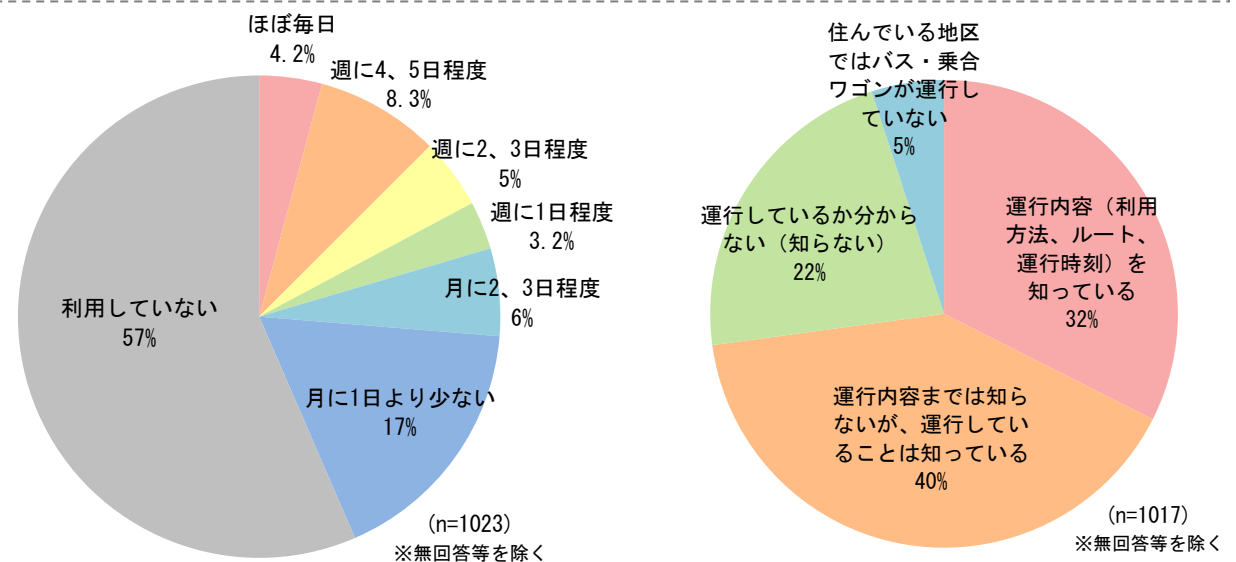


図 バス・乗合ワゴンの利用頻度【高校生】

図 バス・乗合ワゴンの認知度【高校生】

【改善要望（住民アンケート、高校生アンケート）】

- 利用者の改善要望では、「運行便数を増やす」などの運行内容の充実にに関する要望が多い。
- 非利用者の改善要望では、「時刻表やルート図を分かりやすくする（情報発信を増やす）」の割合が最も高い。

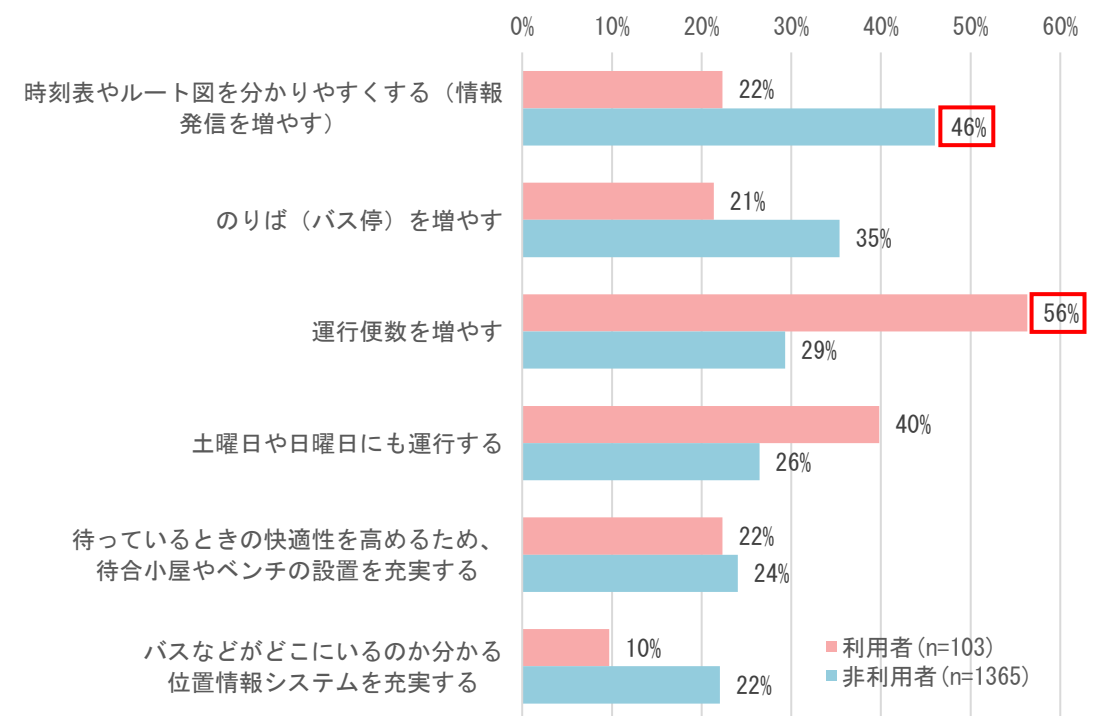


図 改善要望（利用状況別）【住民】 ※上位6項目のみ掲載。

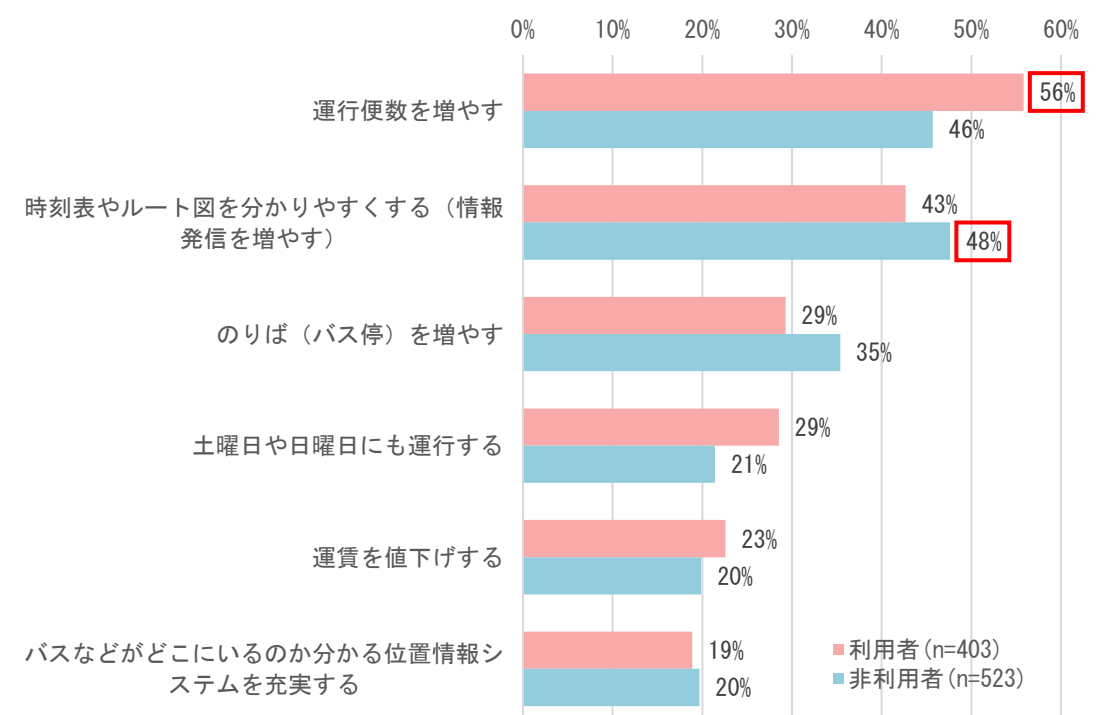


図 改善要望（利用状況別）【高校生】 ※上位6項目のみ掲載。